

ゆぎの里だより

四国電力伊方原発運転差止め 広島地裁で意見陳述

伊方原発の運転差止めを求める原告の一人として私は、11月14日広島地裁第13回口頭弁論で10分間の意見陳述をしました。



私の主張は、核物質は現在の科学技術の到達点ではコントロールできず、一旦事故が起きれば福島原発過酷事故に見られるように取り返しのつかない状態になり、今後、事故を起こさない保証は絶対がない。発電手段は核物質に頼らなくても太陽光、風力、水など豊富で多様にある。



世界の流れは核物質依存から脱却し自然エネルギーの活用に向かっている。使用済み核燃料棒の処理は世界で唯一フィンランドにあるが、地中深く数百メートルガラス固化として10万年単位で埋葬するけど、果たして10万年後に現代の言語が理解できるかが議論されている、そこまでして活用する意義はあるのか…何よりも被爆者として73年間核と人類は共存できないことを身をもって知っている、好んで被爆者になったわけではないと同様、放射能被害を望む人はいない、後世に負の遺産を残すべきで無い…などです。



伊方原発運転差止め訴訟は、愛媛、大分、山口と4県で司法の判断を求めています。昨年、広島高裁で勝訴しましたが今年、逆転敗訴。現在、広島原告は277人、原告は一人でも多くと呼びかけていますのでご一緒しませんか。



特定非営利活動法人ゆぎの里
理事長

ヘルパーセンターの部屋

今年も残り1ヶ月。そして平成最後の師走を迎えます。

「冬至について」

改めて、冬至とは「昼の長さが一年で一番短くなる日です。病気にならずに元気に過ごそうという願いを込めてかぼちゃを食べる風習があります。

「ん」がつくもので運盛りを

冬至には、「ん」が付くものを食べると「うんが呼び込める」と言われています。

にんじん・だいこん・うどん・きんかん・等「ん」の付くものを運盛りといい縁起を担いでいる。

運盛りは縁担ぎだけでなく、栄養をつけて寒い冬を乗り切るための知恵でもあるそうです。

本来、かぼちゃの旬は夏ですが長期保存が利くことから冬に栄養を摂る為の知恵でもあるのです。

「ん」には、一陽来復の願いが込められているそうです。一陽来復…冬がおわり春がくること。

悪いことが続いて幸運に向かうこと等です

ヘルパーセンターゆぎの里

ゆぎの里恒例のもちつき大会は1月開催予定です。

利用者さんとボランティア・ヘルパー・スタッフが交流できる貴重な場です。

ぜひ楽しみにしててくださいね。

